

LION



特集号

LCIF東日本大震災交付金事業

11+



IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

NOVEMBER 2015 WWW.THELION-MAG.JP

ライオン誌(毎月20日発行)第58巻第5号 2015年10月20日発行 昭和33年12月18日付第3種郵便物認可



LEON'S
INTERNATIONAL
L

1111



We Serve CONTENTS

■2015年11月号増刊
表紙
東日本大震災支援物資搬入
333-C地区 / 岩手県・釜石



EXECUTIVE OFFICERS

President Dr. Jitsuhiro Yamada, Minokamo-shi, Gifu-ken, Japan; Immediate Past President Joseph Preston, Dewey, Arizona, United States; First Vice President Robert E. Corlew, Milton, Tennessee, United States; Second Vice President Naresh Aggarwal, Delhi, India. Contact the officers at Lions Clubs International, 300 W 22nd St., Oak Brook, Illinois, 60523-8842, USA.

DIRECTORS

Second year directors

Svein Øystein Berntsen, Hettlevik, Norway; Jorge Andrés Bortolozzi, Coronda, Argentina; Eric R. Carter, Auckland, New Zealand; Charlie Chan, Singapore, Singapore; Jack Epperson, Nevada, United States; Edward Farrington, New Hampshire, United States; Karla N. Harris, Wisconsin, United States; Robert S. Littlefield, Minnesota, United States; Ratnaswamy Murugan, Kerala, India; Yoshinori Nishikawa, Himeji, Hyogo, Japan; George Th. Papas, Limassol, Cyprus; Jouko Ruissalo, Helsinki, Finland; N. S. Sankar, Chennai, Tamil Nadu, India; A. D. Don Shove, Washington, United States; Kembra L. Smith, Georgia, United States; Dr. Joong-Ho Son, Daejeon, Republic of Korea; Linda L. Tincher, Indiana, United States.

First year directors

Melvin K. Bray, New Jersey, United States; Pierre H. Chatel, Montpellier, France; Eun-Seouk Chung, Gyeonggi-do, Korea; Gurcharan Singh Hora, Siliguri, India; Howard Hudson, California, United States; Sanjay Khetan, Birganj, Nepal; Robert M. Libin, New York, United States; Richard Liebno, Maryland, United States; Helmut Marhauer, Hildesheim, Germany; Bill Phillippi, Kansas, United States; Lewis Quinn, Alaska, United States; Yoshiyuki Sato, Oita, Japan; Gabriele Sabatosanti Scarpelli, Genova, Italy; Jerome Thompson, Alabama, United States; Ramiro Vela Villarreal, Nuevo León, Mexico; Roderick "Rod" Wright, New Brunswick, Canada; Katsuyuki Yasui, Hokkaido, Japan.

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される-英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシヤ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会

- 国際理事 西川 義規
- 国際理事 安井 克之
- 国際理事 佐藤 宜之
- 委員長 塚田 雅二 (333複合地区)
- 編集長 井村 一男 (337複合地区)
- 委員 久津間 康允 (330複合地区)
- 委員 中嶋 幸 (331複合地区)
- 委員 佐藤 義則 (332複合地区)
- 委員 石井 博之 (334複合地区)
- 委員 中村 房雄 (335複合地区)
- 委員 寺越 慎一 (336複合地区)

ライオン誌日本語版事務所

〒104-0028東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階
TEL. (03) 6674-8777 (代) FAX. (03) 6674-8781
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp



本誌は環境に配慮したFSC® 認証紙を使用しています。

4 **LCIF東日本大震災交付金事業
被災地を勇気付けた支援
事業**

東日本大震災ではLCIFから約17億円の交付金が提供され、災害発生時から多くの支援活動が展開された。更に中長期的な事業にも取り組み、時が経過しても変わらず被災地を支えてきた。



12 **支援を受けた被災者の声①
巧妙化する組織的な密漁を、夜通し監視する「あやかぜ」号**

岩手県大船渡市 / 綾里漁業協同組合代表理事組合長 佐々木靖男さん



14 **支援を受けた被災者の声②
大きな希望と可能性をもたらした
紙すき機械の支援**

宮城県南三陸町 / 社会福祉法人のぞみ福祉作業所支援課長 森仲也さん



16 **支援を受けた被災者の声③
子どもたちに奉仕の精神を教えた
小中学校への楽器寄贈**

福島県西白河郡矢吹町 / 町長 野崎吉郎さん (矢吹ライオンズクラブ)



18 **東日本大震災復興支援対策本部報告
LCIF東日本大震災復興支援を終えて**

東日本大震災復興支援対策本部 本部長 / 元国際理事 山浦晟暉

次なる災害への緊急支援に備え全国レベルの組織作りを
2010-11年度東日本大震災復興支援対策本部 本部長 / 元国際理事 不老安正

LCIF交付金事業リスト (東日本大震災復興支援対策本部審査分)

被災地を勇気付けた

LCIF東日本大震災交付金事業

東日本大震災ではLCIFから約17億円の交付金が提供され、災害発生時から多くの支援活動が展開された。更に中長期的な事業にも取り組み、時が経過しても変わらず被災地を支えてきた。



東日本大震災発生。その時、ライオンズは

2011年3月11日午後2時46分、太平洋・三陸沖の海底を震源とする、東北地方太平洋沖地震が発生した。地震の規模はマグニチュード9.0。日本周辺で発生した地震としては、観測史上最大の揺れを記録する巨大地震だった。震源域も、岩手県沖から茨城県沖までの南北約500^{キロ}、東西約200^{キロ}のおよそ10万平方^{キロ}と、非常に広範囲なものであった。

この地震により、場所によっては波の高さが10^{メートル}以上、最も高い場所では40.1^{メートル}にも上る巨大な津波が発

生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。

2015年9月現在、震災による死者・行方不明者は18,465人、住宅の全壊・半壊は合わせて399,808戸で、震災発生直後の避難者は40万人以上に上った。しかも、4年半が経った現在でも避難者は約20万人に及び、避難生活は長期化している。

この未曾有の震災が発生した時、不老安正国際理事（当時）は2012年の福岡フォーラムに向けた準備会議に出席していた。その夜、国際本部の業務が始まるのを待って電話を入れると、ちょうどシド・スクラッグス国際

支援事業



会長（当時）が本部におり、被災地支援に関して対応を協議。会長はすぐに本部の関係スタッフを緊急召集し、シカゴ時間12日正午（日本時間12日午前3時）までに、以下の方針を決定した。

- ①LCIFとして1億円（125万ドル）を用意
- ②332-A、B、C、D、E、333-B、C、Dの8地区に対し、緊急援助金（1万ドル）の送金を指示
- ③LCIFとしてこの地震に対する指定献金口座を開設
そして日本時間の12日午後4時には、国際協会日本事務所から各地区に対し、緊急援助金1万ドル（82万円）の振込手続きが完了したことが通知された。

一方、日本では震災発生から2日後の13日、臨時の八複合地区ガバナー協議会議長連絡会議が開かれ、東日本大震災支援対策本部を立ち上げ、会員1人当たり3千円の義援金を募ること、被災地に近い330複合地区に救援活動のサポートチームを組織して支援物資供給の調整役とすることを決めた。こうして、全国のライオンズ力を結集して、被災地で緊急に必要な物資を届けようと、各地のライオンズが物資調達に乗り出した。

331複合地区では、飲料水メーカー社長の小谷孝夫（北海道・黒松内ライオンズ）の協力で3千本の水を調達。18日に岩手県盛岡市滝沢にある県の物資集積所へ向け発送した。ただ、集積所の混雑で荷下ろしまでの待ち時間が4時間にも及んだ。迅速に被災者の元へ物資を届けるには独自のルートが必要だった。そんな中、姉妹クラブであったり、元地区ガバナーの同期会、災害支援を目的に作られた有志によるネットワーク「ライオンネット」などを通じて、ライオンズ対ライオンズの救援も進められていた。

その後、震災から1週間余りが過ぎ、徐々に被災地との連絡が取れ始めると、被害の大きかった332-B（岩手県）、332-C（宮城県）、332-D（福島県）の各地区は、それぞれ独自の物資受け入れ所を設けるようになった。例えば332-B地区は、県北（盛岡）、県央（北上）、県南（奥州）の3カ所を被災地支援の拠点にし、第1副地区ガバナー、第2副地区ガバナー、キャビネット幹事をそれぞれの責任者に据え、地区ガバナーが統括として活動する態勢を整えた。また、全日本レベルの物資についてはキャビネットのある盛岡で受け入れ、そこから各クラブの協力を得て被災地に搬入していくことにした。同様に332-C地区は塩釜市、332-D地区は猪苗代市を物資受け入れ場所として活動を開始した。

現地の態勢が整うと、全日本レベルの支援物資輸送活動も軌道に乗り出す。当初は水やカップ麺など緊急時に必要とされるものを中心に、米や野菜などの食料品が集められたが、他にも靴や下着を含む衣料品が各地へ送られた。336複合地区では製紙会社を運営する宇高昭造336-A地区ガバナー（当時）の協力でトイレトーパー10万個と紙おむつ10万枚、330複合地区は男性・女性・子ども用の下着類各3千セットを調達。サポートチームは被災地区と連絡を取り合いながら物資調達の調整に当たった。



2011年12月20、21日の両日、宮城県南三陸町（佐藤仁町長：南三陸志津川ライオンズクラブ）の仮設町役場で、在宅被災者約1,500世帯に電気カーペットと厚手の毛布が配布された。南三陸志津川ライオンズクラブからの要請に基づき、332-C地区が東日本大震災復興支援対策本部に申請し、LCIF交付金を得て実施したもの。配布に当たっては、南三陸町が仮設住宅に入居していない全世帯にお知らせと申請書を郵送。当日は朝から行列が出来、「厳しい冬を前に助かります」と、うれしそうに支援品を受け取る人たちの姿が見られた。震災後初めての冬を前にした暖房具等の支援事業は全10件、約6,500万円のLCIF交付金が充てられた

被災地で必要とされる物資は時間の経過と共に刻々と変化する。被災地区のキャビネットはそれらのニーズをくみ上げ、サポートチームへ物資を要請をするようになった。が、全てが順調だったわけではなく、「要請した物資が半年経っても届かない」「夏に扇風機を頼んだが、半年経った今でも届かない」などの声が被災地で聞かれた。ライオンズの場合、災害NPOのように常駐の専従スタッフがいるわけではなく、全てメンバーのボランティアで対応している。更に全日本レベルともなれば、経由する組織も多くなる。そのため、この辺りはある程度やむを得ないところもあるだろうが、今回の震災で支援した側・された側の声を集約して、今後に活かしてほしいところだ。

ただ、そうは言っても、被災地の多くのクラブや会員からは、ライオンズの組織力や友情に勇気付けられたと

いう話を聞いた。課題は幾つかあるにせよ、それを補って余りある支援が、全日本、そして世界のライオンズから寄せられたのだ。

LCIFからの支援の中で、特に被災地のライオンたちを勇気付けたものに、クラブ復興のためのライオンズ運営センター設置補助と、特別財政支援プログラムがある。仮設のクラブ事務局設置や備品の購入を始め、被災したライオンズクラブ存続のために交付されたが、これは従来のLCIFのプログラムにはなかったものだ。今回、未曾有の大災害となった東日本大震災に当たり、被災地からライオンズムの灯りを消してはならない、と日本の関係者が強く要望し、それに国際協会が応えて実現した。

日本ばかりでなく、こうして世界のライオンズが自分たちを見ていてくれている、支援してくれているという思いで、解散を踏みとどまったクラブも少なくない。

釜石ライオンズクラブは2人のチャーターメンバーが震災の犠牲となり、更に長引く避難所暮らしで会員2人が体調を崩し亡くなった。また子クラブの釜石リアスライオンズクラブは現職の坂元琢夫会長を津波で失い、一時は解散という声も上がった。その上、両クラブの事務局があったビルも1階部分が完全に破壊され、拠点を失っていた。そんな中、LCIFが設置したクラブ復興のための支援金を活用して、両クラブとも事務局を再建。釜石ライオンズクラブは市役所に近い中心地にトレーラーハウスを設置して再スタートを切り、釜石リアスライオンズクラブは会員から無償提供された土地に在来工法で新事務局を建設。両クラブとも自分たちの拠点が出来たことで、次のステップに踏み出すきっかけになったという。今回の震災では332-B、332-C両地区の12クラブが、事務局再建の支援を受けた





ウィンクン・タム国際会長(当時)は国際理事会アポイントを務めていた山田實紘現国際会長らと、甚大な被害を受けた宮城県名取市を訪問。美田園第2仮設住宅では支援物資として130世帯分の米と飲料水を贈ると共に、居合わせた被災者一人ひとりの手を握り「がんばりましょ!」と語り掛けた

被災した方たちの生活再建を後押しする

2011年9月3日、公式訪問のため来日したウィンクン・タム国際会長は、宮城県仙台市で東日本大震災被災地の地区ガバナーやクラブ会長らと復興支援について協議。各地で被災地を元気付ける屋台村構想が持ち上がっていることを知ったタム会長は、すばらしい企画だとして、ぜひライオンズでも支援しようと提案。早急に申請書を提出してくれば、通常の手続きを経ずして10月の国際理事会で承認されるよう努力すると約束した。

これを受け、332-B地区（岩手／高橋晴彦地区ガバナー＝当時）と332-C地区（宮城／中嶋慶次地区ガバナー＝当時）は急ぎ見積を取って企画書を作成。東日本大震災復興支援対策本部での協議を経て申請書類を整え、何とか理事会に間に合わせた。

理事会では日本からの申請に対して、タム会長とシド・スクラッグスLCIF理事長に一任する決議を採択。その後、会長と理事長の協議により、屋台村を含む復興支援事業8件が追加書類の提出などの条件付きで承認され、

日本側で費用等に精査を加えた上で、LCIF交付金が下りることになった。

その第1弾は、2011年11月12日にオープンした「復興屋台村 気仙沼横丁」だった。ご当地グルメ「気仙沼ホルモン」や寿司、マグロ料理、ラーメン、うどんなどの飲食店の他、鮮魚店や八百屋など22店舗が屋台村に入った。震災前は駐車場だった土地を市が借り上げ、中小企業基盤整備機構がプレハブ店舗を建設。ライオンズクラブは厨房設備などを提供した。気仙沼ではその3か月後の12月24日、気仙沼横丁に近い南町に「気仙沼復興商店街 南町紫市場」がオープンしたが、ライオンズはこちらにもエアコン設備を贈って支援した。

また南町紫市場オープンの4日前、12月20日には岩手県大船渡市に、飲食店20店舗が軒を連ねる仮設店舗「大船渡屋台村」が開業した。市の中心部が壊滅的な被害を受けた大船渡では、大船渡飲食店組合に加盟する60店のうち57店が、津波で流された。新たに店舗を再開する資金もなく、将来の見通しが全く立たない中、屋台村で再起を図ることを計画。各地の屋台村を視察し、

屋台村構想を模索している時、青森県八戸市の「みろく横丁」をプロデュースする332-A地区の中居雅博地区ガバナー（当時）に出会い、ライオンズとのつながりが生まれた。その結果、LCIF交付金での支援が実現、共通備品（ガス台、流し台、製氷機、冷蔵庫、冷凍庫、作業台）がライオンズから支援され、オープンにこぎ着けた。

年が明けて1月27日には、岩手県釜石市に「釜石はまゆり飲食店街」がオープンした。48店舗が軒を連ねる大型飲食店街で、50年以上にわたり「鉄の街」釜石の男たちが愛し続けた飲み屋街「呑ん兵衛横丁」も入り、復活を遂げた。

更にその年の6月2日、岩手県陸前高田市の大隈地区に、「高田大隈つどいの丘商店街」がオープン。屋台村同様、建屋は中小企業基盤整備機構による無償貸与で、LCIF交付金を得て備品などが支援された。また商店街の敷地は傾斜地で、安全確保のためフェンスを巡らせる必要があり、その費用約250万円は332-B地区に寄せら

屋台村プロジェクトの第1号「復興屋台村 気仙沼横丁」。震災で真っ暗になった気仙沼の街に屋台村の灯りをともし、元気を取り戻そうとスタートした横丁を応援するため、オープン時には岐阜県のライオンズを中心に全国の会員たちが提灯を提供した



れた義援金の中から支援が行われた。

屋台村や仮設商店街への支援プロジェクトは全部で6件、交付金総額は約9,260万円に上った。

こうした仮設商店街に対する支援は、飲食店や商店の店主を応援するプロジェクトだが、ライオンズではこの他、被災地の雇用や就労機会の創出に関わる事業も支援している。

岩手県大槌町の中心から小槌川に沿って5^{キロ}ほどさか



のほった^{わらびうちな}蕨打直の集落にある(社)和 RING-PROJECTの工房もその一つ。和 RING-PROJECTは2011年6月に活動を開始。津波で流された家屋の木材を、キーホルダーとして再生することから出発した。使用するのは所有者がはっきり分かり、その許可を得たものに限っている。被災された人たちの思いが詰まった家財を、一つひとつ丁寧に加工。「がれきのキーホルダー」は仮設住宅などに住む40人以上の被災者が内職に携わり、全国で5万個以上を売った。その後、12年2月に一般社団法人となり、本格的に木工品の製作を開始、大槌町から緊急雇用対応

事業の指定も受けた。更に工房を自力で拡張して大型の工作機械も入れ、県内外の木工職人から技術を学んだり、大学機関と連携して製品作りに当たったりして、技術も製品の質も飛躍的に向上させている。

また、岩手県宮古市には、活動を被災者支援に特化した陸中宮古ライオンズクラブ陽だまり支部がある。同支部は被災者が自立していくための手芸品作りなどを進めているが、その中心として「みやこ体験広場」を開設。広場



岩手県大槌町にある和 RING-PROJECTのシェア・ファクトリー。震災後、ボランティアで被災地支援を続けていた埼玉県出身の池ノ谷伸吾代表が、被災地の復興に欠かせないのが産業と雇用の創出だとして、大槌町への移住を決意し社会起業。がれきのカーホルダー作りからスタートし、現在では本格的な木工製作に取り組んでいる

には新旧合わせて4棟のユニットハウスを設置。裂き織りやうに染め製品のショールームと体験工房を中心に、無料の交流スペース「陽だまり」も併設させた。資金はLCIF東日本大震災指定交付金900万円と、鳥根県・浜田亀山ライオンズクラブからの援助150万円、自己資金30万円余で賅った。更に、一部の人だけではなく、老若男女いろいろな人が集う、本当の意味での広場にしたい、と空きスペースにキッチンカーを置いて名物グルメの提供も始めたが、このキッチンカーの購入資金530万円余りもLCIFから提供してもらった。



岩手県宮古市に開設された「みやこ体験広場」のうち手創工房「輝きの和」では裂き織り(緋紗織)と、着物のリメイクを中心に制作。また染物工房では、うに殻から抽出した色素を使う、うに染めが体験出来る。これは陸中宮古ライオンズクラブ陽だまり支部会員でもある彩田川宮子のオリジナル染色法で、三陸鉄道とのコラボ企画で三陸ジオパーク周遊の中に組み込むことも計画されている

常に被災地のニーズを把握して支援を継続

東日本大震災では発災直後の支援物資の供給に始まり、生活再建のための仮設商店街開設や雇用創出プロジェクトなどの中長期的な活動まで、さまざまな事業がLCIF交付金を活用しながら実施された。

その中でも特に件数が多かったのが、学校設備を含む青少年関係の事業だ。件数では46件に上り、事業費総額は約1億2,300万円となっている。内容は教材や図書、備品など、学校や幼稚園、保育園など教育機関に対する支援が主だが、子どもたちが通う柔道場の修復やスポーツ少年団の送迎及び遠征用バス、ライオンズクラブ子どもハウスの建設など、多岐にわたっている。

一方、総額が最も多かったのは医療関係の事業で、こちらは28件の事業に、総額約5億6千万円のLCIF交付金が提供された。このうち22件、約5億2千万円は日本病



宮城県山元町の「カフェ地球村」は現在、障害を持つ方が働く場としてだけでなく、「工場地球村」で作った自主製品の販売拠点にもなっている。また、近くに仮設団地があることから、被災した方たちの憩いの場としても親しまれ、にぎわいを見せている

院会とのタイアップで実施したもので、日本病院会常務理事でもある山田實紘国際会長の主導の下、病院会を通して被災地の医療機関から寄せられた申請をサポートチームが調整し、それぞれのニーズに合わせて医療機器や付属備品を支援した。また、日本病院会とは別に、岩手県陸前高田市に設置した「子どもの心のケア」仮設診療ブース（約1,300万円）や、宮城県南三陸町の公立志津川病院仮設診療所耳鼻咽喉科医療機器（約640万円）、宮城県仙台市における心の復興プロジェクト・ワークショップ活動費（約60万円）などの事業が実施された。

金額や件数は多くはないが、ライオンズクラブらしい活動として、被災地の障害者施設を支援した事業もある。14頁でも紹介している宮城県南三陸町の「のぞみ福祉作業所」は、作業を受注していた町内の企業が被災し、震災後は全く仕事が入らない状態だった。これを知った

東京世田谷ライオンズクラブが支援に乗り出し、自主製品の開発を提案。のぞみ福祉作業所の希望で、紙すき道具を支援することになり、南三陸志津川ライオンズクラブと共に事業を推進。アクティビティを通してつながりがあり、作業に紙すきを取り入れている世田谷区の共同作業所の協力を得て紙すき道具を選定し寄贈した（約260万円）。

また、宮城県山元町にある「工場地球村」は震災後、仕事が3分の1に激減した。そんな中、地球村を震災前の状態に戻すだけでなく、それ以上に発展させようと、カフェプロジェクトが浮上。支援に来ていた精神科医や交代で仕事を手伝ってくれた全国の社協スタッフ、また東京日本橋、東京町田クレイン両ライオンズクラブらの協力で、作業所脇に「カフェ地球村」を作ることになった。東京日本橋ライオンズクラブからこの話を聞いた山元ライオンズクラブは、地球村を訪ねて実情をヒアリング。ト

く、宮城県山元町の「工場地球村」は震災後、仕事が3分の1に激減した。そんな中、地球村を震災前の状態に戻すだけでなく、それ以上に発展させようと、カフェプロジェクトが浮上。支援に来ていた精神科医や交代で仕事を手伝ってくれた全国の社協スタッフ、また東京日本橋、東京町田クレイン両ライオンズクラブらの協力で、作業所脇に「カフェ地球村」を作ることになった。東京日本橋ライオンズクラブからこの話を聞いた山元ライオンズクラブは、地球村を訪ねて実情をヒアリング。ト

宮城県石巻市の大街道地区にコインランドリーと併設の地域集会場がある。2011年6月に、当時の河合悦子330-A地区ガバナーから332-C地区に支援の申し出があり、話し合いの中でコインランドリーの設置案が浮上。地域のニーズ調査で8割の人が必要と答えると共に、集会場の要望が多く出され事業が企画された。これを受けて330-A地区はコインランドリーの機械購入費として1千万円を寄託。地域集会場を併設した建屋の建設費1,600万円はLCIF交付金を活用した





震災前は園児から中学生まで、多くの子どもたちが稽古に励んでいた岩手県大船渡市の柔道場「時習館」は津波で骨組みだけを残し、全てを流された。大船渡五葉ライオンズ倶楽部の申請によるLCIF交付金約1,900万円の時習館を再建、柔道場の畳(約260万円)も支援した。また、兵庫県・明石ライオンズ倶楽部から50万円が寄託され、大船渡五葉ライオンズ倶楽部を通じて柔道着などが子どもたちに贈られた

被災者支援活動の取り組み

レーラーハウスは難民を助ける会から寄贈してもらえるが、障害を持つ人たちやお年寄りが安心して働いたり利用したりするには、スロープ付きのウッドデッキが必要と分かり、約200万円のLCIF交付金を得て、土地の整地とウッドデッキ及びスロープ等の付帯工事を行った。

今回の東日本大震災に対するLCIF交付金で、まとまった金額が出たものの一つに、原発事故関連の事業がある。具体的には、放射能測定装置の寄贈(9件)と除染用の高圧洗浄機の支援(961台)で、約1億3,600万円の交付金が提供された。また、前述の日本病院会を通じた医療関係の支援約5億2千万円のうち、半分以上となる約2億6,600万円は、ホールボディカウンターや甲状腺超音波画像診断装置、甲状腺移動検診車など、内部被ばく検査のための備品を配備するために使われており、支援目的としては原発事故関係が約4億円と最も大きかった。

◆ 被災者支援活動の取り組み

東日本大震災に対しては、LCIFから総額で約17億円が交付されたが、その一つひとつに被災地のライオンズが関わっている。例えば、岩手県・田野畑ライオンズ倶

被災者支援活動の取り組み

は震災後、LCIFやキャビネットの援助を受けながら被災者支援活動を開始。村に給水車を寄贈したり、避難所にファンヒーターや電気毛布を持って行ったりした。また、被災者が仮設住宅に移ってからは、灯油用ポリタンクの収納ケースを各戸に贈った他、仮設住宅の自治会に除雪機を提供するなど、被災者のニーズを細かに把握しながら活動してきた。更に時が経過し心のケアが問題になると、花や野菜の苗を植えたプランターを仮設住宅に配るなどして、ややもすると閉じこもりがちになるお年寄りが、外に出て交流出来るような支援を心掛けてきた。

LCIFは2007年、イギリスの経済紙『フィナンシャル・タイムズ』が、国連グローバル・コンパクト(UNG)などと協力してまとめた非政府組織の評価で、世界第1位に格付けされた。プログラムの遂行、情報の伝達、適応性、説明責任に関する格付けで、全ての事業に現地のライオンズが責任を持って関わり、丁寧に対応するその姿勢が、世界第1位の評価につながったのだろう。東日本大震災に対する支援事業を通じて、改めてLCIFのそうした存在感と必要性がクローズアップされたようだ。

巧妙化する組織的な密漁を、 夜通し監視する「あやかぜ」号

岩手県大船渡市／^{りょうり}綾里漁業協同組合代表理事組合長 佐々木靖男さん



右上が被災した初代あやかぜ

▶岩手県大船渡市の綾里漁業協同組合が密漁監視のため運用していた「あやかぜ」は、震災で陸に打ち上げられ修繕不能と

なった。漁協は県の補助事業を活用した資金とLCIF東日本大震災指定交付金964万1,500円の支援を受け、中古船を購入して改修。2012年12月13日から2代目「あやかぜ」として、密漁監視に役立てている。

「私どもの綾里地区は、アワビの水揚げが県下でも上位にあります。そのため絶えず密漁の懸念があり、陸からだけでなく、監視船によって1年中、海上からの監視活動も行っていました。しかし、東日本大震災によって、使用していた監視船が、修繕を断念せざるを得ないほどの甚大な被害を受けました。

当初は密漁船も被災したと思われていたのですが、密漁の場合はゴムボートなどでも間に合うことから、夜遅くに沖の方で不審船の光が見えたなどの情報が入ると、気が気ではありませんでした。そこで、大船渡市の緊急雇用事業を活用して、被災を免れた組合員を雇う形で漁船をチャーターし、震災の年の12月1日から臨時乗組員3人態勢で密漁監視を再開させました。

その2日後ぐらいだったと思いますが、大船渡ライオンズクラブの方から、中古船購入支援の話がありました。我々としては願ったりかなったりのお話だったので、中古船の資料を見せて頂き、早速そのうちの1隻について照会させて頂きました。その後、組合での協議などを経

て、翌年1月には該当する中古船の実地検船も行い、2月にライオンズクラブの方に中古船購入支援の要請を行いました。しかし、希望した中古船の導入は不採用となり、ライオンズの復興対策本部の方からは、代わりに新しいプレジャーボートではどうかとの提案を頂きました。

ただ、密漁監視船は通常、8ノット（時速約15^{km/h}）ほどのゆっくりした速度で航行しながら監視活動を行います。これは、普通の船のスピードの3分の1程度です。逆に密漁船の方は、海上警備艇などから逃げるために、エンジンを改造した高速のプレジャーボートを用意するなどしているようですが……。

密漁者を捕まえるのではなく、あくまでも監視活動が目的で、密漁者を発見した場合は、海上保安部に通報します。話では、アワビなどの密漁が、暴力団の新たな資金源になっているということで、そんな相手に追尾活動などは出来ません。そうした点をご説明し、再考をお願いした結果、地元大船渡のライオンズの方々のご尽力もあって、希望していた中古船の導入が決まりました」

▶一昨年、岩手県普代村で9人の密漁団が現行犯逮捕された。この時押収された1,550個（166^{kg}）のアワビの時価総額は約150万円。わずか1日でこれだけの稼ぎになるため、1週間、10日と続けると数千万円単位の金額になる。昨年、釜石市で捕まった3人組も3日間で2,066個（約255^{kg}）のアワビを密漁していたという。「我々の漁協に限らず、三陸沿岸では津波で多くの漁船や監視船が破壊されました。震災前はほとんどの漁師が海のそばに住んでいたんですが、今は高台の仮設住宅などに移っています。夜になると、沿岸部には人気は全く無くなり、そこを狙って密漁が繰り返されています。震災後はやりたい放題と言ってもいい状態にありました。しかも、最近の密漁は組織的で、海での密漁から陸路の



綾里漁協の佐々木組合長(左)と、あやかぜの東川雅人船長

運搬、更には販路までもしっかり確保しているんだそうです。もちろん、売る先が決まっているから密漁するのでしょうか……。

密漁はアワビが中心ですが、ナマコやウニなど、高値で現金化出来るのも、彼らにとっては大きな利点なのでしょう。その分、こちらにとっては、たまったものではありませんが。それに、密漁に季節はありません。我々はアワビなら11月から翌年1月までと漁期を決めていますが、密漁者にとっては漁期など関係ないわけです。1年365日、油断が出来ません。

また、アワビは殻長^{かくちよう}3センチほどの稚貝を放流し、9センチにならないと取らないようにしています。この間、6年間かかります。しかし、密漁者はそのようなこともお構いなしです。昨年9月、すぐ近くの釜石市唐丹で、3人組の密漁者が逮捕されましたが、この時押収された2千個以上のアワビのうち、半分近くは9センチ以下のアワビだったそうです。

「現在、夕方から夜中の2時か3時頃まで、しけ以外の日は毎日監視活動を行っています。2代目あやかぜ導入以来、これまで被害は出ていないわけですが、それこそが成果の一つと言えると思います」

大きな希望と可能性をもたらした紙すき機械の支援

宮城県南三陸町／社会福祉法人のぞみ福祉作業所支援課長 森伸也さん



▶のぞみ福祉作業所は津波によって施設が全壊。利用者2人が犠牲になった。震災から2カ月余り後には建物や備品、車両など全てを失いながら、プレハブで作業所を再開。そんな中、南三陸志津川ライオンズ[®]を通じて支援先を探していた東京世田谷ライオンズ[®]の進藤義夫会長（当時）との出会いを機に、LCIF交付金264万4,320円援で紙すき機械一式の寄贈を受けた。

「震災前に施設があったのは安全とされていた場所でしたが、そこにも最大水位20^{cm}ほどの津波が押し寄せて、施設にいらした利用者の方々と高台にある志津川高校に避難しました。避難生活を始めて間もなく、ご家族や利用者の皆さんからは集う場所がほしい、いつ再開出来るのかという声を頂きました。震災前に施設を利用されていた方は14人でしたが、残念ながらお二人が津波の犠牲になり、3人は町を離れて、残っていたのは9人の方々でした。幸いすぐに提供して頂ける場所が見つかり、プレハブの入手に時間がかかったものの、5月24日に施設の再開にこぎ着けることが出来ました。支援のために南三陸を訪問されていた東京世田谷ライオンズ[®]の進藤さんにお会いしたのは、それから間もなくのことです。その後、難民を助ける会さんの支援で建てて頂いた仮設の作業所に移ることになりましたが、仕事を受託していた町内の企業は全て被災されて、作業再開は全く目処が立たない状況でした。そんな時、東京で障害者支援に携わっておられる進藤さんから、自主生産品の開発を勧められました。提案されたのは焼き菓子と紙すきです。焼き菓子の作業には調理師免許を持ったスタッフが必要になりますし、震災後の活動の中で紙すき体験をしていたこともあって、紙すきを選ばせてもらいました」

▶紙すき機械は震災からほぼ1年後の2012年3月に寄贈。さまざまな支援を受けながら商品開発を進めた結果、

作業収入は震災前を大きく上回るまでになった。

「紙すきの機械を頂き、震災前と同じような工賃が稼げるようにしたいと考えましたが、最初はどんな製品を作るかという確かなイメージはありませんでした。震災前は町内の企業さん十数社から仕事を頂き、水産加工会社のメカブのパックにタレを付ける作業や、笹かまぼこの箱折りなどを行っていました。そういう作業は何個やればいくらの収入になるという計算がすぐ出来、それが利用者の皆さんのやりがいにもつながります。でも紙すきの場合、作ってもどれくらい売れるかは分かりません。その上、他の作業所の方からは『紙は売れない』という話も聞かされました。そこで、ただ白い紙をすくだけでなく、付加価値のある売れる製品を作らなければ、と考えたんです。取り組んだのはステンシルで季節の絵柄をプリントしたはがきです。2012年の夏シリーズからスタートし、その年の秋シリーズがおかげさまでとてもよく売れました。この方向性で間違っていない、自分たちでも紙すきで稼げるんだという大きな自信が生まれました。翌年には、アートを通じた支援をされているエイブルアート・ジャパンによる被災地支援プロジェクトの対象に選んで頂きました。我々の紙すきに対する熱意を買ってくださったんです。ちょうど、チリから贈られるモアイ像がもうすぐ届くという時期で、モアイをモチーフにした製品作りと、紙すきによる新商品の掘り起こしの2点が課題でした。そのワークショップで利用者の一人が描いた『モアイくん』が高く評価され、早速『モアイくん』モチーフのタオルが製品化されました。このタオルの大ヒットもあって売り上げは大きく伸び、昨年は震災前の6倍にもなりました。とはいえ、今のところは被災地を訪れた方のお土産や、支援を目的にした購入がほとんどです。今後は安定して発注して頂けるような商品の



開発を進めていかなければと考えています」

▶紙すき事業に取り組んだことで、売り上げだけでなく利用者の意欲が高まり、仕事に対する誇りが生まれている。その端緒を作ったのが、ニーズをとらえたライオンズの支援だった。

「実際に始めてみて気づいたのですが、一口に紙すきと言っても、紙パックを処理して紙の原料を作る作業や、出来たはがきの厚さをチェックするために重さを量る作業、商品の袋詰めなどいくつもの工程があるので、障害の度合いに合った作業に皆がまんべんなく関わることが

出来ます。特に紙すきを担当する利用者さんは、誇りを持って仕事に取り組んでいます。また、アートというこれまでにない分野に取り組んだことで、利用者の皆さんの新たな可能性の広がりを感じています。更に、紙すきの原料は牛乳や酒の紙パックのリサイクルですが、全国から支援してくださる方々が収集に協力してくださり、つながりが続いています。人から人へ、一つの支援が次の支援へとつながって、ここまでくることが出来ました。ライオンズが寄贈して下さった紙すき機械が、その大きなチャンスを与えてくれたんです。

子どもたちに奉仕の精神を教えた小中学校への楽器寄贈



福島県西白河郡矢吹町／町長 野崎吉郎さん（矢吹ライオンズクラブ）

▶津波の被害はなかったが、地震そのものの被害が大きかった町、福島県西白河郡矢吹町。

「私が町長を務める西白河郡矢吹町は福島県の内陸部にあります。そのため、東日本大震災の際は津波などの被害はありませんでした。また、福島第一原子力発電所からも離れているため、放射能による大きな混乱もありませんでした。しかし、ここは地震そのものによる被害は大きなものがありました。震度は6弱。建物の損壊は4,700棟に及び、うち600棟は取り壊しを余儀なくされました。道路には亀裂が走り、上下水道も止まりました。幸いなことに停電はなかったんですが、水道の方はそうもいかず……断水の復旧には1カ月を要しました。一時は700人以上が避難していましたし、炊き出しは震災から1カ月続けられました。いまだに90世帯200人が仮設住宅等に住んでいます。現在、町では災害公営住宅を建築中で、2016年3月までに全入居を目指している状態です」

▶吹奏楽が盛んな地域への楽器補充プロジェクトに地元ライオンズクラブがLCIF交付金を申請し、行政の手が回らない分野での支援が実現した。

「矢吹町は元々、吹奏楽が盛んな地域で、矢吹小学校、善郷小学校、矢吹中学校の吹奏楽クラブは毎年、県内で優秀な成績を収めています。しかし、東日本大震災では各校にも被害が及び、多くの楽器が壊れてしまいました。楽器は高価なものです。町のさまざまところに復興のための支援が必要な状況下で、楽器に多額の費用をかけるわけにはいきません。そこで、行政では時間をかけて段階的に、壊れてしまった楽器を補充していく計画を立てていたんです。そんな中、矢吹ライオンズクラブから震災後楽器の寄贈がなされた他、数々の支援の手が差し伸べられました。楽器の支援の他にも、同クラブは四つの小

学校や矢吹中学校に図書465万円の支援をして頂きました。行政の手が回らない分野への支援であり、非常にありがたかったですね。

そして、東日本大震災の被害が大きかった所ではLCIFに支援を申請出来るという話を頂き、矢吹ライオンズクラブから矢吹町への支援が申請されました。当時、東日本大震災に対する支援は、津波の被害が大きかった沿岸部、もしくは放射能の影響のある地域に回りやすかったんです。そのため、矢吹町への支援も実現されるかは不透明な状況でした。ですが、その際にバックアップしてくださったのが、当時の安澤荘一332-D地区ガバナーです。安澤元ガバナーが内陸部の被害についても重要視してくださったこともあり、矢吹町の小中学校への楽器の寄贈という支援が承認されました。

こうして、矢吹町はLCIFから705万円の支援を受けることが出来ました。また、町と矢吹ライオンズクラブでも計250万円を拠出。合計955万円を投じて楽器の補充を全て完了させました。また、吹奏楽のクラブがない二つの学校にも木琴など音楽の授業で使いやすい楽器を寄贈し、不公平がないようにしました。壊れた楽器をだましまし使ってきた子どもたちの喜びはひとしおだったんじゃないかと思います。その年に矢吹中学校、矢吹小学校と善郷小学校がそれぞれ県大会に出場し、優秀な成績を収めたのは、こうした子どもたちの気持ちの表れではないでしょうか」



▶楽器の支援を受けた子どもたちが老人ホームなどに慰問へ。子どもたちにボランティア精神の大切さを教えたすばらしい事業だった。

「行政としてはどうしても生活に必須である部分の復旧を優先せざるをえない面があります。ですが、そういった復興に加え、文化やスポーツ面など、心の復興にも同時に取り組みたい気持ちはありました。物理的には不可能でしたが、必要なことだと思っていたからです。こうした部分を埋めてくれたのが、この楽器寄贈の支援でした。これによってどれだけ子どもたちが喜び、生きる希望を持ってくれたことか。それを想像するだけでもすばらしい支援だったと思います。

また、こうして支援を受けた子どもたちの中に、ボランティアに対する意識が芽生えたのもうれしいことです。現在、これら小中学校の吹奏楽クラブは老人ホームや、養護学校への慰問、地元の祭りへの参加などのボランテ

ィア活動に積極的に取り組んでいます。まるで、自分たちの受けた恩を他の人にも分け与えているかのようですね。そうしたボランティアの際には、大会のために練習を重ねている曲も披露するんですが、老人ホームでは水戸黄門のテーマを演奏するなど、行く先で喜んでもらえるような曲も練習してくれているんです。こうした子どもたちの演奏によって元気ももらっている人も少なくありません。改めて心の復興の大切さ、ハード面ではなくソフト面での支援の必要性を痛感しています。行政としても、物理的な復興と合わせて、取り組んでいきたいと思っています。

震災後、町全体でお互いを助け合うシーンが多く見られます。ですが、そういった善意の輪の中に子どもたちの姿があるのは、矢吹ライオンズ[®]が申請し、安澤元ガバナーが奔走して実現した楽器の支援が一つの契機となったのではないかと考えています」



LCIF東日本大震災復興支援を終えて



東日本大震災復興支援対策本部 本部長／元国際理事 山浦 健暉

戦後最大、国難と言うべき未曾有の大災害が東日本に発生し、早4年6カ月が経過しました。死者・行方不明者約2万人、建物被害130万軒、改めて尊い命を落とされた方々に哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げると共に、被災された多くの方々に心よりお見舞いを申し上げます。

この大震災発生直後、当時の国際理事、八複合地区協議会議長は、シカゴのライオンズクラブ国際協会本部と緊急協議の上、日本国内はもちろん世界各国からの支援金、支援物資をLCIFを通して、受け入れ払い出しを実行するため、日本側の窓口として東日本復興支援対策本部を開設しました。

東日本大震災復興支援対策本部会議は国際理事、八複合地区協議会議長、特に多大の被害を受けた332-B地区（岩手）・C地区（宮城）・D地区（福島）各地区ガバナー（2011-12年度は332複合地区の全ガバナー）、会計監査の公認会計士・事務局職員等で構成し、毎月1回東京・銀座の日本ライオンズ連絡事務所にて開催されました。

東日本大災害に対しては全世界から「日本のライオンズクラブには、日頃LCIFを通して大変お世話になっている。今度は日本にお返しする時だ」と支援が相次ぎました。LCIFに寄せられた東日本大震災復興支援に対する指定交付金は、台湾220万ドル、韓国95万ドル、アメリカ及びカナダ225万ドル、ヨーロッパ230万ドル、インド及びアフリカ43万ドル、日本からは1,150万ドルに上り、LCIFからの交付金としては東日本大震災に対するLCIF指定交付金は大災害援助金・災害援助金108万ドルも含め総額2,100万ドルとなりました。更にアメリカ、ドイツ、フランス、デンマーク、台湾、韓国、LCIF等から支援物資が送付されました。これらの支援金・支援物資は住宅を失った方、職を失った方など被災者の皆さん及びその地

域に対する次のような支援に充てられました。

- ①被災した幼稚園・小中学校の設備や学習に対する支援
- ②医療施設の復興、医療機器、搬送車等の補充支援
- ③被災者のメンタル・カウンセリング
- ④避難場所並びに仮設住宅に住む被災者への各種支援

支援期間4年4カ月で約200件（21～25頁参照）の事業に有効に活用させて頂きました。

LCIF交付金、支援物資の受け入れ及び払い出しに対しては、LCIF本部からガイドラインが示され、支援要請理由・購入時の合見積書提出、結果報告書・証憑類提出等、^{ひょう} 厳重な管理体制確立の要請がありました。復興支援対策本部は被災地からの支援要請に対し、ガイドラインの要件を全て満たしているか否かをチェックし、審査するための対策本部会議は、災害発生直後から終了時2015年6月11日までの間に、延べ52回の会議を重ねました（332複合地区審査会50回まで含めると会議は延べ約100回）。時には夜を徹しての協議となったこともありました。

ライオンズのこの度の支援活動は、災害を受けた方々に「明日を強く生きる勇気と希望」をもたらすまさに「Beacon of Hope（希望の光）」となり、全国のクラブメンバーの、深い結束と絆を深め、原点に立つての「ウィ・サーブの在り方」「奉仕に対する心」を、改めて甦らせて頂けたのではないのでしょうか。

なお今期、ライオンズクラブの世界の頂点に立たれた山田實紘国際会長は、テーマ「命の尊厳と和」の中で、特に21世紀を担う青少年の「命の尊厳アクティビティ」を重要視され、東日本大災害の教訓として、四方を海に囲まれた日本国の、沿岸部に存在する幼稚園・小中学校生に対し、ライオンズとして、ライフジャケットを提供する活動の推進を期待しておられます。東日本災害復興

に対する、LCIF指定交付金事業は終了しましたが、家を流され仮設住宅に暮らしておられる方々は、いまだ14万6,000人おられ、また原発事故の被害で、故郷や仕事を失った方々等、多くの方々にとって完全復興の灯火は、遠く先が見えない現状であります。その一方で、あの未曾有の災害の記憶が、徐々に風化しようとしています。

日本人は思いやりがあり、礼節を重んじ、忍耐強く、団結力の強い絆で結ばれている民族です。5年後の2020年、東京オリンピック・パラリンピックに来日する世界中の人々に、日本復興の底力を見せられるよう、今後も復興支援に対する深いご理解とご協力をお願い致します。

我々は、この度の東日本大震災災害復興支援に対する、世界中のライオンズの同志からのご高配に、深い感謝の心を表せねばならぬと同時に、この世界からの支援により、ライオンズクラブが、地球規模の奉仕団体であることを再認識させられ、改めてLCIFの存在意識とその重

要性を痛切に感じさせられました。今後も、国境を越えて社会の平和と人々の幸せを願う、ライオンズムの根幹とも言うべきLCIFに、惜しめない協力をしようではありませんか。

結びに、この4年半にわたり、東日本大震災復興支援本部会議に参加して下さった、歴代の八複合地区議長・被災地区332複合地区のB・C・D各地区のガバナー、そしてLCIFと支援本部また被災地間との、帳票類等、事務処理を担当して下さった、日本ライオンズ連絡事務所の職員各位、会計及び監査を担当された公認会計士の先生、そしてご協力下さった全国のメンバー各位に、心より感謝とお礼を申し上げ、東日本大震災復興支援本部終了のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

私は必ずや再び東北地方に、春が訪れると信じます。

甦ろう東日本!!

頑張ろう日本ライオンズ!!

自2011年3月11日 至2015年6月30日

日本ライオンズ東日本大震災義捐金口座 特別会計

支出の部		金額 (円)	収入の部		金額 (円)
<支出計>		1,720,222,025	<収入計>		1,720,222,025
332複合地区支援金		1,500,793,186	LCIF		
一時金	147,000,000		大災害援助交付金	US\$1,000,000	82,000,000
ライフジャケット	2,219,954		特別財政支援プログラム	US\$1,000,000	82,000,000
332-A地区支援	3,000,000		クラブ復興支援	US\$500,000	41,000,000
332-B地区支援	255,998,924		日本指定献金振替	(US\$18,510,145)	(1,495,786,887)
332-C地区支援	344,056,511		2011年3月~6月	US\$3,170,000	259,940,000
332-D地区支援	234,434,910		2011年7月~12月	US\$4,961,967	386,033,426
清算返戻金	△ 6,718,848		2012年1月~6月	US\$5,188,859	418,297,579
	979,991,451		2012年7月~12月	US\$4,214,327	334,066,745
日本病院会関係			2013年1月~6月	US\$500,000	49,000,000
332-B地区内	188,598,684		2013年7月~12月	-	-
332-C地区内	67,620,473		2014年1月~6月	-	-
332-D地区内	266,085,000		2014年7月~12月	US\$474,991.54	48,449,137
清算返戻金	△ 1,502,422			US\$18,510,145	1,495,786,887
	520,801,735		韓国指定献金振替	US\$154,943	12,705,326
333複合地区支援金		37,759,749	ボシュロム指定寄付	US\$165,709.73	19,885,168
一時金	43,000,000		LCIF経由指定寄付	US\$293,429.00	29,008,999
清算返戻金	△ 5,240,251		LCIF経由指定寄付振替	(US\$478,187.00)	△ 46,854,350
災害支援会議費用		4,218,710	LCIF交付金額 (USドル)	US\$21,146,039	
役員旅費	4,129,260		LCIF交付金入金額 (円貨)	¥1,715,532,030	
視察バス・タクシー代	89,450		弁済金		4,630,000
サポートチーム関係		155,489,782	受取利息		59,995
緊急支援物資費用	155,494,192				
清算返戻金	△ 4,410				
補助金		3,858,200			
337-A地区若葉高校ダンス部	1,000,000				
336-C地区チームひろしま	1,358,200				
337-D地区始良の心を東北へ	1,500,000				
ボシュロム関係 (啓発パンフレット)		17,876,213			
支払手数料		226,185			
振込手数料	137,283				
取引手数料	88,902				
残高		0			
合計		1,720,222,025	合計		1,720,222,025



次なる災害への緊急支援に備え全国レベルの組織作りを

2010-11年度東日本大震災復興支援対策本部 本部長／元国際理事 不老安正

東日本大震災の発生を知ったのは、福岡市内のホテルで開かれた第51回OSEALフォーラム組織委員会の会議の最中だった。すぐに1年目理事だった山浦晟暉国際理事(当時)と相談し、2日後の13日に八複合地区の協議会議長との対策会議を開くこととした。その日の夜には、国際本部事務局で執務中のシド・スクラッグス国際会長、ピーター・リンチ国際本部長(いずれも当時)と対応を協議し、当面の緊急支援の資金としてLCIFから125万ドルの交付が決まった。13日会議では、東日本大震災復興支援対策本部を立ち上げること、LCIFに会員一人当たり3千円の支援を募ること、支援物資供給の調整役を担うサポートチームを組織し八複合地区が連携して支援活動に当たることを方針として打ち出した。その後開かれた臨時のガバナー協議会議長連絡会議では、この方針に沿って支援を進めることが決まった。

東北地方沿岸部に壊滅的な被害をもたらした津波は、被

災地のライオンズクラブと会員にも甚大な被害を及ぼした。4月に開催された国際理事会では被災クラブを支えるための支援を要望。LCIF交付金でライオンズ会員を含めた被災者への特別財政支援とクラブ事務局を想定した運営センター設置の補助を行う前例のない措置が承認された。こうして被災者への緊急支援はもちろんのこと、被災地のクラブに対する支援も動き出した。

ライオンズクラブにはアラート・プログラムがあるが、自然災害その他の緊急事態に対応するには、全国レベルのシステムを確立しておくことが必要であろう。平時から態勢を整え自治体や関連組織などと連携を取っておくことで、いざという時にライオンズの全国的な組織力が発揮出来るはずだ。今回は議長が対策本部のメンバーとなったが、アラート専任のメンバーが緊急対応に当たれば、支援活動をより迅速に進めることが出来ると私は考えている。(談)

東日本大震災復興支援対策本部メンバー

2010-11年度

本部長(国際理事)	不老安正
副本部長(国際理事)	山浦晟暉
330複合地区議長	桜井孝一
331複合地区議長	古谷野環
332複合地区議長	其田 桂
334複合地区議長	堀田和之
336複合地区議長	武久一郎(故)
337複合地区議長	増田十郎

332-F地区ガバナー 照井一美

2012-13年度

本部長(元国際理事)	山浦晟暉
副本部長(国際理事)	高田順一
副本部長(国際理事)	武久一郎(故)
330複合地区議長	河合悦子
331複合地区議長	中嶋 辛
332複合地区議長	田畑英伍
333複合地区議長	高田 浩
334複合地区議長	杉浦 均
335複合地区議長	奥村啓二
336複合地区議長	寺越慎一
337複合地区議長	澁田繁晴
332-B地区ガバナー	千葉龍二郎
332-C地区ガバナー	佐藤義則
332-D地区ガバナー	坂本 勇

333複合地区議長	小坂橋欽也
334複合地区議長	柳原宏行
335複合地区議長	森本克幸
336複合地区議長	渡部雅文
337複合地区議長	鬼塚俊郎
332-B地区ガバナー	佐々木賢治
332-C地区ガバナー	林 昭兵
332-D地区ガバナー	安澤 荘一

2011-12年度

本部長(国際理事)	山浦晟暉
副本部長(国際理事)	高田順一
330複合地区議長	小峰理孝
331複合地区議長	井ノ浦義明
332複合地区議長	宮田 謙
333複合地区議長	萩原光義
334複合地区議長	岡本正治
336複合地区議長	迫越正彦
337複合地区議長	椿 幸雄
332-A地区ガバナー	中居雅博
332-B地区ガバナー	高橋晴彦(故)
332-C地区ガバナー	中嶋慶次
332-D地区ガバナー	久保田善九郎
332-E地区ガバナー	野川 亘

2013-14年度

本部長(元国際理事)	山浦晟暉
副本部長(国際理事)	武久一郎(故)
副本部長(国際理事)	清水英徳
330複合地区議長	佐藤精一郎
331複合地区議長	伊藤信賢
332複合地区議長	若木 幹

2014-15年度

本部長(元国際理事)	山浦晟暉
副本部長(国際理事)	清水英徳
副本部長(国際理事)	西川義規
330複合地区議長	金子正之
331複合地区議長	西池 彰
332複合地区議長	竹田 明
333複合地区議長	牛木 護
334複合地区議長	丸山正芳
335複合地区議長	城阪勝喜
336複合地区議長	松前龍宗
337複合地区議長	八並 信
332-B地区ガバナー	吉田昭夫
332-C地区ガバナー	鈴木俊一
332-D地区ガバナー	渡邊 豊

*逝去以外の理由で退会された方は除外

LCIF交付金事業リスト(東日本大震災復興支援対策本部審査分)

申請元	内容	金額(円)
332-A(青森県)		
1 地区キャビネット	災害被災者支援用車輛	3,000,000
332-B(岩手県)		
1 大船渡LC	クラブ復興支援:事務所(15坪)	5,468,000
2 釜石リアスLC	クラブ復興支援:事務所(12坪)	4,958,804
3 釜石LC	クラブ復興支援:事務所(トレーラーハウス)写真①	5,500,000
4 田野畑LC	車両1台、除雪車3台	1,268,820
5 釜石リアスLC	防災ラジオ3,000台(緊急放送受信タイプ)写真②	30,555,000
6 釜石LC	屋台村56店舗什器備品支援	37,661,400
7 陸前高田LC	陸前高田複合店舗ミニ商店街プロジェクト	11,713,380
8 地区キャビネット	大船渡屋台村厨房等支援	16,139,637
9 地区キャビネット	仮設診療所「子どもの心のケア」診療ブースの備品設備	5,471,550
10 地区キャビネット	上記診療ブースの設備工事 写真③	7,653,450
11 大船渡五葉LC	時習館柔道場修復費用	18,998,278
12 大船渡LC	密漁監視船(中古船)購入費用	9,641,500
13 大船渡LC	声の福祉図書館運営ボランティアヘカセットマスター機	437,325
14 大船渡LC	大船渡市グランドゴルフ協会、用具・草刈り機械・倉庫	1,575,000
15 大船渡LC	鳥沢応急仮設居住者ヘ暖房器具支援(こたつセット他)	1,848,500
16 大船渡LC	鳥沢応急仮設居住者ヘ暖房器具支援(石油ファンヒーター)	1,371,400
17 大船渡五葉LC	密漁監視船購入の一部支援	3,022,390
18 大船渡LC	クラブ復興支援:大船渡北支部・備品	1,590,015
19 釜石LC	眼科手術顕微鏡の寄贈	11,550,000
20 大槌LC	シェア・ファクトリー&レストラン建屋建設費用支援	9,000,000
21 大船渡五葉LC	大船渡スポーツ少年団送迎及び遠征バス費用支援	6,715,340
22 大船渡五葉LC	時習館柔道場の畳支援	2,600,000
23 地区キャビネット	陸前高田市立図書館こども文庫ヘ図書費用支援	1,500,000
24 地区キャビネット	被災者就労支援と集会所「工房&サロン陽だまりみやこ」	9,000,000
25 地区キャビネット	カラー複合機支援支援事業に関わるメンテナンス等の費用	1,000,000
26 陸中宮古LC	みやこ体験広場 キッチンカー購入支援	5,324,400
27 陸前高田LC	陸前高田市立気仙中学校ヘ図書費用支援	2,442,515
28 大船渡五葉LC	大船渡市立赤崎中学校ヘ図書他費用支援	2,467,741
29 釜石LC	釜石保育園、鶯住居保育園、鶯住居幼稚園に遊具の支援 写真④	1,254,700
30 陸中山田LC	山田町立不名越小学校校舎落成記念碑寄贈	600,000
332-C(宮城県)		
1 地区キャビネット	「復興屋台村」厨房機器等の支援	17,430,840



申請元	内容	金額 (円)
2 石巻中央LC	クラブ復興支援：合同事務所設置のための内装、電力供給、空調設備等の設置	850,000
3 大衡エコーLC	被災者からの支援依頼物資購入（寝具類）	693,000
4 仙台エコーLC	市教育委員会からの支援要請（ホワイトボード、アコーディオン）	1,134,462
5 七ヶ浜LC	七ヶ浜中学校備品支援（扇風機、書庫、丁合機、冷蔵庫他）	881,580
6 地区キャビネット	仮設住宅生活者の備品支援（電子レンジ、パイプ椅子、下駄箱、ベンチ）	914,655
7 地区キャビネット	LCIF特別財政支援プログラム申請	42,660,000
8-A 仙台高砂LC	電気カーペット100枚	980,000
8-B 仙台高砂LC	湯たんぽ&カバー各100個、レスキューライト&電池	718,200
9 気仙沼LC	温暖カーペット200セット支援	1,960,000
10 南三陸志津川LC	温暖器具等の物資支援（毛布、電気毛布、電気カーペット、こたつ他）写真⑤	27,073,000
11 石巻中央LC	コインランドリー・集会所新築工事	15,750,000
12 塩釜LC	冬用肌着上下・靴下 男・女・子供各200セット	1,890,000
13-A 亘理LC	電気カーペット800枚	4,784,000
13-B 亘理LC	上記カーペットのカバー	1,992,000
14 仙台東LC	ホワイトボード・キャスター	198,230
15 丸森LC	放射能測定器セット	1,386,000
16 名取LC	電気ホットカーペット2,000世帯2,000個	19,600,000
17 石巻中央LC	仮設住宅内子どもの学習施設及び遊具施設	5,000,000
18 気仙沼LC	クラブ復興支援：事務局パソコン、コピー機	913,500
19 柴田LC	電気ホットカーペット183枚	1,793,400
20 塩釜LC	電気ホットカーペット500枚	4,900,000
21 岩沼LC	岩沼仮設住宅の集会所設備支援	530,300
22 山元LC	クラブ復興支援：クラブ用品	559,675
23-A 東松島LC	第4R第1Z合同、15校教材支援	5,611,468
23-B 東松島LC	第4R第1Z合同、15校教材支援	1,466,330
24 気仙沼LC	復興仮設店舗に対するエアコン設備	8,618,400
25 仙台五城LC	石巻市立雄勝中学校卒業アルバム製作資金支援	250,000
26 地区キャビネット/気仙沼LC	気仙沼全中学校生徒に対する副教材の支援	9,976,630
27 石巻中央LC	漁業従事者防寒作業着支援	863,100
28 地区キャビネット/南三陸志津川LC	知的障害者施設へ紙漉き機械の支援	2,644,320



29 七ヶ浜LC	七ヶ浜町立向洋中学校生徒への教材支援 写真⑥	927,000
30 七ヶ浜LC	七ヶ浜町立七ヶ浜中学校生徒への教材支援	903,960
31 第2R第1Z	放射能洗浄機購入の支援	1,250,000
32 石巻中央LC	湾内養殖用漁船（中古船）購入支援	2,835,000
33 地区キャビネット	内水面用漁船（中古船/新船）購入支援 写真⑦	7,938,000
34 南三陸志津川LC	公立志津川病院仮設診療所耳鼻咽喉科医療機器設置支援	6,423,900
35 仙台五城LC	石巻市立雄勝中学校卒業アルバム製作資金支援	250,000
36 山元LC	コミュニティーカフェ設置支援（トレーラーハウス及び付帯工事）	1,969,275
37 仙台青雲LC	ライオンズクラブ子どもハウス（石巻市小湊浜） 写真⑧	2,625,000

38	蔵王LC	東日本大震災メモリアル石柱	2,079,000
39	七ヶ浜LC	被災小学生の給食時牛乳支援	2,900,000
40	東松島LC	学校教材、教具支援事業	411,050
41	気仙沼LC	クラブ復興支援：仮設事務局支援	2,572,500
42	名取LC	被災開上商店街等の販売促進に係る支援（アルミテント6張り）	992,250
43	名取LC	食品等放射能検査のための環境整備等支援（エアコン他）	469,319
44	気仙沼LC	気仙沼市内 全中学校生徒に対する副教材の支援	9,621,030
45	地区キャビネット	被災地域の児童へ木製玩具の支援600個	500,000
46	地区キャビネット	被災者の通院用送迎移動車輛購入支援	8,058,792
47	地区キャビネット	のびる幼稚園遊具一式 写真⑨	4,000,000



48	地区キャビネット	石越中学校震災復興図書管理システム等支援	1,937,900
49	東松島LC	東松島市内小中学校へ軽トラック7台購入支援	7,522,000
50	石越LC	石越小学校へ吹奏楽器支援 写真⑩	2,193,000
51	仙台青葉LC	心の復興プロジェクト・ワークショップ活動の諸費用一部支援	600,000
52	地区キャビネット	七ヶ浜の仮設住宅敷地内にソーラー街頭設置	1,690,000
53	地区キャビネット	ライオンズの森整備と子供の心のケアハウス（山小屋）建設 写真⑪	7,940,160
54	地区キャビネット	気仙沼市内全中学校生徒に対する副教材	9,253,280
55	塩釜LC	名取市開上小中一貫校へ太鼓一式	3,500,000
56	地区キャビネット	ライオンズの森、屋外活動用椅子・テーブル及びテント	1,013,256
57	地区キャビネット	桃生中学校吹奏楽器の購入	531,840
58	仙台高砂LC	被災児童の心のケア・子育て支援	712,692
59	仙台ニューポートLC	南蒲生地区コミュニティマルシェ・プロジェクト	3,000,000
60	地区キャビネット	蔵王自然の家支援・蔵王ふるさと探検事業 写真⑫	2,426,085
61	山元LC	町内のまちづくり協議会等の野外活動用テント	1,961,280
62	利府LC	利府町被災コミュニティ復活イベント応援	2,039,256
63	気仙沼LC	ONE-LINE～気仙沼クリスマスイルミネーションプロジェクトへの支援	2,000,000
64	石巻桃生LC	中津山第一小学校遊具設置	2,026,595
65	塩釜LC	塩釜市北浜地区・町内会コミュニティ用品	1,031,886
66	蔵王LC	南三陸町歌津泊水産物荷捌施設運搬リフト	1,550,000
67	利府LC	利府町被災コミュニティ復活イベント応援、炊き出し用具	460,080
68	石巻中央LC	被災地区の救済活動（フリーペーパーの製作支援）	1,000,000
69	涌谷LC	世界スカウトジャンボリー見学派遣	1,082,240
70	塩釜中央LC	松陽台第一町内会コミュニティ絆復活プロジェクト音響機器	806,328
71	第2R第1Z	集団移転地内の公園緑化事業	849,960
72	南三陸志津川LC	被災地ふるさととの健康づくり・心のケア支援活動	2,342,920
73	七ヶ浜町長	七ヶ浜生涯学習センター児童書具警備品購入	868,320
74	気仙沼LC	新・気仙沼ライオンズクラブ文庫の開設	1,999,911
75	仙台高砂LC	被災児童心のケア・子育て支援	1,104,602
76	名取LC	増田中学校へオーケストラチャイム寄贈	860,000
77	石巻中央LC	被災地区救済活動資金「寄らいん牡鹿」中古プレハブ	1,000,000

申請元	内容	金額 (円)
-----	----	--------

332-D (福島県)

1-A 地区キャビネット	高圧洗浄機の購入 (200台)	10,000,000
1-B 地区キャビネット	高圧洗浄機の購入 (200台)	10,000,000
2 須賀川LC	藤沼湖決壊による被災への支援	1,000,000
3 福島信陵LC	サテライト校通学生の遠足支援 (小学校へ刈払機、プロアーク・遊具一式除染)	448,600
4 福島松川LC	避難住民の各種生活支援用、軽ワゴン車購入	1,007,640
5-A 地区キャビネット	LCIF特別財政支援プログラム申請	3,210,000
5-B 地区キャビネット	LCIF特別財政支援プログラム申請	12,680,000
6 地区キャビネット	飯館村「いやしの宿いいたて」支援 (3回実施)	184,320
7 福島西LC	多機能型高圧洗浄機支援	367,500
8 本宮LC	シンチレーター及び仮設住宅への支援、微量放射能測定装置、除雪機他	45,887,415
9 地区キャビネット	放射線量情報板の設置	15,519,000
10 矢吹LC	学校図書の寄贈	4,272,000
11 伊達町LC	表面汚染測量器の支援	262,500
12 地区キャビネット	玉川村からの要望に対する給湯室ボイラー、トレーニング機器	13,778,000
13 地区キャビネット	高圧洗浄機の購入 (200台)	10,000,000
14 地区キャビネット	飯館村「いやしの宿いいたて」物資支援 (洗剤雑貨類、電灯電球)	1,408,335
15 地区キャビネット	高圧洗浄機購入 (200台)	10,000,000
16 地区キャビネット	高圧洗浄機購入 (161台) 累計支援数: 961台	8,050,000
17 地区キャビネット	鏡石町災害復旧備品整備事業	9,866,265
18 福島グリーンLC	放射能測定器の支援	714,000
19 本宮LC	放射線測定器の支援 (環境放射線モニター他)	7,679,700
20 国見LC	仮設住宅の避難者車両	875,331
21 白河LC	災害被災者支援用車輛	2,698,193
22 梁川LC	除雪用機械、屋外子どもを見守る人々の用品	1,713,100
23 白河小峰LC	食品・環境放射能測定装置導入の支援	15,000,000
24 福島西LC	保育園へ多機能放射線測定器寄贈	1,717,800
25 郡山西LC	富岡町立幼稚園・小学校・中学校へ収納・運動用具	1,641,483
26 郡山西LC	特定非営利活動法人オハナ・おうえんじゃーへ福祉車両 写真⑬	1,153,180



27 郡山西LC	特定非営利活動法人スケッチブックに福祉車両	3,529,330
28 地区キャビネット	電気自動車及び関連設備	4,758,235
29 本宮LC	大玉村内の保育所、幼稚園、小学校、中学校計7カ所へ環境放射線測定器	1,470,000
30 地区キャビネット	環境放射線モニターの支援 (幼稚園、保育所計5カ所)	500,000
31 地区及び第6R第2Z	復興支援車輛マイクロバスの寄贈	9,156,640
32 原町LC	保育園砂場建設 写真⑭	652,113
33 会津若松LC	避難者支援活動用車輛整備	2,077,000
34 矢吹LC	矢吹町立小中学校他計5校へ楽器の支援	7,056,281
35 安達LC	二本松社会福祉協議会へ避難者支援活動用車両整備	1,016,091

36	地区キャビネット	白河市へ車椅子同乗軽自動車	1,108,560
37	埼LC	室内遊具（ドームバウンサー）購入 写真⑮	968,250
38	332-D	特定非営利法人パンダハウスを育てる会へ業務用給湯器設置	3,500,000
39	地区キャビネット	イベント用テント2張り	1,347,168
40	岩代LC	浪江町民避難者支援活動用除雪機2台	942,880
41	地区キャビネット	飯館村の子供たちへデジタル地球儀1台 写真⑯	5,218,000

日本病院会関係支援

332-B (岩手県)

1	地区キャビネット	仮設診療施設の医療機器等の整備	
1-A		県立高田病院 眼科機器等の整備	34,524,420
1-B		県立大槌病院 内視鏡等の整備	34,248,900
1-C		県立山田病院 内視鏡等の整備	33,827,115
1-D		陸前高田市仮設診療所 医療器械、機材等の整備 写真⑰	1,581,594
1-E		済生会岩泉病院 医療器械、機材等	54,663,000
1-F		宮古市 国民健康保険田老診療所 医療器械、機材等	1,995,000
1-G		野田村公設診療所 医療器械、機材等	1,868,748
2	地区キャビネット	被災地における医師等の訪問診療用の車両整備	11,717,625
3	地区キャビネット	陸前高田市国保広田診療所 訪問診療車両整備	2,205,000
4	地区キャビネット	岩手県立宮古病院 緊急移送車両整備	8,640,000
5	地区キャビネット	岩手県立高田病院 訪問車両整備	1,838,360



332-C (宮城県)

1	地区キャビネット	石巻赤十字病院 訪問看護車輛	3,648,713
2	地区キャビネット	石巻港湾病院 患者送迎用車輛（リフトバス）	2,999,000
3	地区キャビネット	石巻港湾病院 患者用車椅子（30台）	1,530,000
4	地区キャビネット	石巻赤十字病院 災害救護車輛	5,537,410
5	地区キャビネット	歯科巡回診療車	41,948,550
6	地区キャビネット	巡回診療用ポータブルX線撮影装置（歯科用2台）	3,360,000
7	地区キャビネット	南浜中央病院 医療機器等の整備	8,596,800

332-D (福島県)

1	地区キャビネット	ホールボディカウンター3台 写真⑱	126,000,000
2	地区キャビネット	甲状腺移動検診車（2台）、甲状腺超音波画像診断装置（4台） 写真⑲	120,120,000
3	地区キャビネット	甲状腺超音波画像診断装置（1台）の整備	9,975,000
4	地区キャビネット	甲状腺超音波画像診断装置（1台）の整備	9,990,000

（注）332複合地区及び333複合地区における初期の緊急支援は品目が非常に多岐にわたるため本リストには含まれていません



記事投入口



記帖所



大槌ライオンズクラブ

WHERE THERE'S A NEED
THERE'S A LION

SINCE 1917



ニーズのあるところに、ライオンズがいる

奉仕の歴史を奉仕で祝う

100周年記念奉仕チャレンジ

2年後に迫った協会創設100周年祭を、ライオンズの神髄である奉仕によって祝おうと、今年度から「100周年記念奉仕チャレンジ」がスタートしました。「青少年の奉仕を促そう」「視力を分かち合おう」「食料支援をしよう」「環境を保護しよう」の四つの奉仕分野で各クラブが事業を行い、それぞれ2500万人、計1億人に奉仕しようという挑戦です。実施期間は2014年7月から17年12月までで、4年度にわたって続けられることとなります。



YOUTH

2500万人に貢献

青少年の参加を促そう - 地域の青少年を助ける奉仕事業を行ったり、あるいはレオや地域の青少年と一緒に奉仕を行ってもらい、次世代のボランティアを育てることも出来ます。



VISION

2500万人に貢献

視力を分かち合おう - 目の不自由な子どもや隣人の役に立つ事業を計画して、視力の贈り物をしましょう。



HUNGER

2500万人に貢献

食料支援をしよう - フードドライブ（食品回収）や炊き出し支援活動などを通じて、家庭や地域の健康を支えます。



ENVIRONMENT

2500万人に貢献

環境を保護しよう - 環境を保護・美化する事業を企画し、皆にとって住みよい町づくりを目指しましょう。

ライオンズクラブ国際協会創設100周年のテーマは、「ニーズのあるところに、ライオンズがいる」。地域のニーズに応えるアクティビティで、100周年祭を祝う記念奉仕チャレンジに参加しましょう。